（別紙4）　　令和　6　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2292300379		
法人名	医療法人社団　弘仁会　中根クリニック		
事業所名	グループホーム　かりんの花		
所在地	〒416-0903　静岡県富士市松本134-1　（電 話）054-60-9000		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

年々介護度も上がり支援が必要な方が多くなりますが、「安心した生活」「ご自身で出来る」生活が継続出来る様に支援させて頂いています。共同生活でも馴染みのある職員と共に、家庭的な生活を過ごせるよう多方面からのアプローチと共に、多種多様な提供が出来るチームを目標としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

静岡県（グループホーム　かりんの花）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型施設として、地域の方に利用しやすい環境を、理念に基づき提供している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりが途絶えない様、地域活動されている方々との交流の機会を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて参加して下さっている方々に、認知症の理解を深めて頂けるよう発信を行っている。また、ご家族様だけでなく来訪された際は、相談の対応に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しております。運営状況・事故報告させて頂き、ご意見頂いております。地域防災に関しても、緊急時の対応など意見交換させて頂いてます。	市又は包括、民生委員、区長、ご家族様が参加して下さっております。法人内では理事長、管理者、介護支援専門員、介護職	地域との連携、市との連携を密に行い、地域の方が安心して利用出来る施設を継続して頂ければと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは連絡を取り、ケアーに関係する事情を報告する事によって、協力体制に努めている。	地域や行政との連絡は大事なので、今後も続けて頂ければと思います。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の設置。会議にて研修の場を設け、身体拘束の理解を深めている。また、身体拘束が必要ないケアに努めている。	身体拘束について、研修等取組対応されているので、引き続きよろしくお願いいたします。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	委員会の設置。身体拘束と同様に研修の場を設け、普段の業務を見直す事により、虐待に繋がる事のないケアに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修等を活用し自立支援・成年後見人制度を学んでいる。現在利用のご利用者様に対象者の方がおられない為、今後必要となった時に対応出来る様に努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に可能な範囲で説明を行っている。また、契約後であっても、不明な点があれば都度対応させて頂いている旨をお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談意見等は毎月ご家族様に用紙を配布させて頂いている。ご家族様の意見が出やすい様に無記名で行っている。また、運営推進会議等を利用し、報告させて頂いている。	日頃の状況がお便りで伝わるので、とても助かっております。ただいい事ばかりではなく、自分の母親（父親）がご迷惑掛けていることなども教えて頂ければと思います。	ご家族様が求めらている部分が他にもある事が分かったので、他の仕方部分だけではない所もお伝えできればと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別での面談や会議等を用いて、職員が意見を言える場を設けている。	管理者、リーダーに相談できる職場を継続して下さい。	現場で働く職員さんにも情報が伝わる様に、また参加できるタイミングあれば参加して頂く事も検討していく。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課等個々の評価をしっかりと評価している。給与の反映は管理以上で評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力に合わせ外部研修に参加している。また、法人内で研修を行う事で、知識・技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流できる機会が少ないので、出来るだけ外部の研修などに参加している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様・ご家族様の要望を実践し、ニーズの解消に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に必ずご家族様の困っている事を確認し、家族の負担も軽減出来るプランを検討させて頂いている。また、開始後も都度確認を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様が必要とされるサービスがグループホームで良いかの話し合いを繰り返し、支援の内容を話合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援を提供する場だけにならないように、専従の職員が馴染みのある関係性を築き、生活できる場の提供に努めている。また、利用者の方が出来る事は職員と一緒に活動できるような雰囲気作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでもご家族様に会えるように、面会は制限なく来訪できるように、また急な外出等も自由にして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や今までの関係性を出来る限り継続して頂けるように、ご家族様に日々の情報共有に努めている。	ボランティア活動の方々との交流が戻り、今後も継続出来る様に密に連絡を取って下さい。	ボランティア活動の方々との交流が戻りつつあるので、今後も継続出来る様に。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中、ご利用者様同士が親しい関係性が築けるよう支援を行っている。また職員が介入する事によって、安心できる環境を支援させて頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、担当者には情報提供に努めている。また、ご家族様にはいつでも相談に来て頂けるように、お声掛けさせていただいている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いを汲み取り、希望や意向など把握する様努めている。出来る事、出来ない事があるが、代替案など検討して支援に努める。	1人1人対応して下さり、大変だと思いますが今後もよろしくお願い致します。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用時に必ず、今までの環境生活等聞き取りを行い、フェースシートを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を経過記録、申し送り等を活用し、職員間で情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員・主治医等の要望・意見を反映しよりよく暮らして頂けるよう介護計画を作成している。モニタリング実施、意見交換を行いカンファレンスを行っている。	チームケアーはとても難しく、分からない情報等はご家族様がいっぱい知っていると思いますので、情報共有と共に、密に関わりを継続して行って下さい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を記録し、会議等で意見交換を行っている。必要に応じて主治医にも報告をしケアーの見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様ニーズに合わせ、柔軟な支援が行われるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしが提供できるように努めている。一人ひとりに地域資源を提供出来るよう努めているが、まだ十分出来ているとは言えない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人の為、医療連携は適切に支援行えている。必要に応じて直接Drとの相談している為、ご利用者様、ご家族様に安心して頂いている。	グループホームの弱い点の医療に関して、医療法人で理事長(Dr)と密に連絡が取れるのは、とても強い面なので、ご家族様も安心されていると思います。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護師が利用者様の状態を確認している。往診時以外でもWEB等活用し必要に応じ相談し適切な支援が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず、家族含め病院に情報提供行い、連携を密に行っている。必要に応じて書面又は面談で情報交換を行っている。		医療保津人の強みでもあるので、医師との関わりを密にして、ご利用者様の健康と、ご家族様の安心を今後も続けて頂ければと思います。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「看取りに関する指針」についての説明と同意を頂いている。その後も体調の変化に合わせ、早い段階でDr・家族と話し合いを行っている。	法人内にDrがいる強みだと思います。医療に関しては安心して頼りにしております。	終末期に家族の思いも揺らぐので、最期まで家族の思いを汲んで今後も支援して頂けれたらと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修を実施。AEDの訓練を受けています。看護師より感染対策や緊急時の初期対応の研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。うち1回は消防署立ち合いで実施。また毎月防災委員会にて会合を行い、防災に関しての情報共有を行っている。	地域との関わりや、防災に関しての意識が高いので、今後も非常事態の事を検討していってください。	防災訓練だけでなく、BCPも含めて今後は検討していく。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の尊厳を守る為、言葉使い態度に気を付け敬語で話し、ご利用者様の話には傾聴している。接遇の研修も実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の思いや希望を聞きだせるような工夫を行っている。職員が全て決めるのではなく、利用者様が選択出来る様なアイデアを取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ペースに合った生活を過ごしていただく為の支援を心掛けている。同じ事の繰り返しにならないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月理美容にてご本人様の希望をカットされている。カラーパーマも同様に希望があれば行っている。衣服が同じものだけ繰り返し着る事のないよう支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	イベントや季節の食事を楽しんでいただく企画を実地している。外食等にも出かけ、いつもと違う雰囲気で食事を楽しんで頂いている。	施設外に出ているかどうかわかりづらい所もあるので、企画等などで外出の機会があると嬉しいです。	外出企画を今後増やしていく。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の栄養状況で、Dr相談し補助食品等で健康状態を把握している。水分摂取には気を付け、一定量より減らないように工夫を施し摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方には歯科医師に相談し、クリーニングを施行していただいている。日常での口腔ケアに関して、必要に応じて職員が仕上げを行い清潔が維持できるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄が続けられるように、支援を行っている。オムツを使用する用になっても、外せる時間帯は外す支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて薬を服用して頂いているが、薬にだけ頼らず、入浴時などには腹部のマッサージを行い、水分を接種して頂いている。看護師訪問時には腸内音の確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中だけの入浴サービスではなく、ご利用様の体調やタイミングに出来る限り合わせられるように努め、個々にあった入浴を支援している。1人あたり30分～40分程度		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間までの時間を大切にし、ご利用者様一人一人が好きな時間で入床出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の薬の目的や副作用等は薬情等を確認し服薬に努めている。Dr往診時に様子を報告し健康管理に努めている。変化がある場合は都度報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合ったレクや生活リハビリを提供し、日々の生活が業務的にならないよう支援に努め、季節ごとに変化を付けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様・ご本人様の希望を伺い外出できるよう支援を行っている。外泊も可能。普段行けないような場所は、企画を立て行っている。	実際外泊される方はいますか？朝から夜まで外出する時はありますが、外泊される事はありません。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様に使用して大丈夫な金額を確認し、買い物に行ける方には一緒に同行し、また買い物に行けない方には、職員が代わりに購入し説明を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様・家族様の連絡が途絶えないよう支援に努めている。ご家族様に了承得て、自由に電話されている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の環境整備に努め、室温の調整や換気を行っている。毎日清掃行い、異臭・汚れなどない、居心地の良い空間を作ろうと努力している。	広い空間ですが、清掃もしっかりされ、ご利用者様がゆっくり出来ていると思います。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で過ごして頂けるように、居場所の提供に努めている。また、一人になりたい場合も、共有のスペースではない本人の過ごしやすい場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個別によって偏りがあるが、馴染みの物を居室に置き、今までの生活の継続が出来るように、ご家族様に説明し協力していただけるよう努力している。	継続して今までの生活で使用していた物は使えなくなってきていると思いますが、今後もサポートして行って下さればと思います。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせ、安全な生活が出来るよう、ベットや箪笥の位置を変更している。共有スペースでは整理整頓に努め、障害物にならない様支援に努めている。		